

# クラブ・ロイヤリティが地域・ベネフィットに与える影響について

## The effect of club loyalty to community benefit

1K05B134

武田 哲樹

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 中村好男先生

### <緒言>

生涯学習社会の到来を受け、体育・スポーツ界でも生涯学習の一環としてスポーツを位置づけ、「生涯スポーツ」という用語が一般化するようになった。そしてこの生涯スポーツ社会の実現が、今や多くの国の重要な政策課題となっている。日本では生涯スポーツ社会の実現に向け、様々なスポーツ政策が展開されてきた。このような流れの中で文部科学省は、1995年に総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業を開始し、2000年にはスポーツ振興基本計画を策定した。スポーツ振興基本計画の中では、国民の誰もが、それぞれの体力、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現し、成人の週1回のスポーツ実施率が2人に1人(50パーセント)となることを目指している。これらの政策目標を達成するために、総合型地域スポーツクラブの全国展開を最も重要な施策としており、2010年までに全国の各市区町村において少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを育成すると明示している。

この総合型地域スポーツクラブに関する先行研究はいくつかあり、クラブ会員の意識から経営課題を検討したり、クラブ会員の運動・スポーツ活動と、クラブの満足度や地域生活の変容との関係を明らかにしようとする研究などがみられる。そこで本研究ではクラブ・ロイヤリティが、クラブ会員の地域生活にどのような影響を与えているのかを明らかにすることを研究目的とした。

### <方法>

本研究は、所沢市西地区総合型地域スポーツクラブの会員を対象に質問紙調査を行った。質問項目は先行研究を参考にした。質問紙の内容は人口統計学的ファクターに基づき、性別、年齢、クラブへの入会年などを尋ねた。またクラブに対する会員の意識を明らかにするため9つの質問項目を設け、5段階で評価し、それをもとにしてクラブ・ロイヤリティを求めた。またクラブ加入後、会員の地域生活に与えた影響(地域・ベネフィット)を明らかにするために、さらに9つの質問項目を設け、5段階で評価した。また地域・ベネフィットを3つのグループに分け、それぞれをスポーツ生活の変容度、地域生活の変容度、地域・ロイヤリティと定義付けした。その後、クラブ・ロイヤリティ、スポーツ生活の変容度、地域生活の変容度、地域・ロイヤリティ、それぞれの平均値を求め、そこでグループ分けを行った。

分析にはクロス集計を用いて、クラブ・ロイヤリティと地域・ベネフィットなどとの関係を明らかにした。

またクラブに対する会員の意識を明らかにするための9つの質問項目を、クラブ・ロイヤリティの9つの構成要素とし、これらと会員の地域生活との因果関係を明らかにするために重回帰分析も行った。

### <結果及び考察>

クラブ・ロイヤリティと会員の地域生活との関係を明らかにするため、クロス集計を行った。その結果、クラブ・ロイヤリティが低ければ、会員の地域・ベネフィット、スポーツ生活の変容度、地域生活

の変容度、地域・ロイヤリティも低く、クラブ・ロイヤリティが高ければ、地域・ベネフィット、スポーツ生活の変容度、地域生活の変容度、地域・ロイヤリティも高いということが明らかになった。またクラブ加入期間が長い会員ほど、クラブ・ロイヤリティが高いということも明らかになった。

次にクラブ・ロイヤリティの9つの構成要素と、会員の地域生活との因果関係を明らかにするために、重回帰分析を行った。この分析の結果、「クラブの運営に少しでも貢献したい」という要素が、「地域・ベネフィットの高低」、「地域・ロイヤリティの高低」の2つに最も影響を与えており、「クラ

ブに対して愛着を感じている」という要素は、「スポーツ生活の変容度の大小」、「地域生活の変容度の大小」の2つに最も影響を与えているということが明らかになった。さらに、「クラブに対して愛着を感じている」という要素は、「クラブ・ロイヤリティの高低」にも最も影響を与えているということも明らかになった。

#### <まとめ>

総合型地域スポーツクラブの運営を会員に任せ、クラブに対する愛着を増加させることが、会員の地域生活の向上に繋がっていくと思われる。